

2026年6月23日

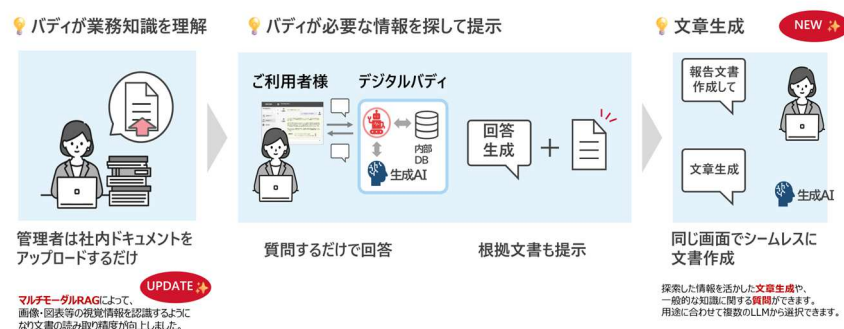
**画像・図表も読み取るマルチモーダル RAG と汎用 AI 対話機能を搭載し
バージョンアップした「RICOH デジタルバディ」の提供を開始
～ 情報収集だけでなく分析・生成まで可能、社内ナレッジの AI 活用を促進 ～**

リコージャパン株式会社(社長執行役員:笠井 徹)は、画像・図表も読み取るマルチモーダル RAG*1と汎用 AI 対話機能を搭載し、バージョンアップした生成 AI サービス「RICOH デジタルバディ」を、2026年6月26日より提供開始します。

生成 AI の業務利用が広がる中、多くの企業では、PDF やスキャン文書、図面、表計算資料など形式の異なる情報が分散しており、従来のテキスト中心のナレッジ管理では AI を十分に活用できない状況にあります。特に図表や画像に含まれる情報が検索対象にならない点が、業務文書での AI 活用の制約となっており、これらの情報をいかに AI に取り込み活用するかが課題となっています。

「RICOH デジタルバディ」は、生成 AI を活用した社内ナレッジ活用サービスとして、社内文書をもとに AI が回答を生成できる機能を提供してきました。このたびマルチモーダル RAG 機能を正式に搭載し、テキストに加え、文書内の図面・グラフ・表・写真といった情報も AI が読み取り、検索・回答できるようになりました。さらに、汎用 AI 対話機能が追加され、社内文書の横断検索に加え、議事録の要約や報告書の構成案作成など幅広い業務への生成 AI 活用が可能になりました。料金体系は従来の質問回数制から利用量に応じたクレジット制へと刷新、全社展開から部門内での活用まで、用途やニーズに応じて柔軟に利用可能です。

*1 テキストに加え、画像や図表など複数の形式のデータを横断的に検索・活用し、大規模言語モデル(LLM)による回答生成に反映する RAG(検索拡張生成)の手法。多様な情報を統合的に理解し、より文脈に基づく回答が可能となる点が特徴。



バージョンアップした RICOH デジタルバディ概要

リコージャパン株式会社 <https://jp.ricoh.com/companies/ricoh-japan>

報道関係のお問い合わせ先 リコージャパン株式会社 コーポレートコミュニケーション部

E-mail : zjc_rjccd@jp.ricoh.com

お客様のお問い合わせ先 <https://promo.digital.ricoh.com/ai/digitalbuddy/contact/>

リコーは、企業内に蓄積されたノウハウや経験など、言語化されていない「暗黙知」を含む情報資産の AI 活用を支援する企業向け AI プラットフォーム「Hi.DEEN(ヒデン)」*2 を展開しています。本サービスでは、「Hi.DEEN(ヒデン)」における「ドキュメント活用基盤」である、「ナイーブ RAG」*3「マルチモーダル RAG」*1「グラフ RAG」*4 の技術を適用しています。社内に散在する情報を AI が正しく理解し活用できる環境の実現を、本サービスを通じて支援していきます。

*2 リコーが開発した、企業内に眠る「暗黙知」や「非構造化データ」を資産に変え、競争力の源泉となる「秘伝のタレ」へと昇華させるための AI 技術基盤。

*3 LLM に対し、外部ドキュメントを検索して取得した情報をそのまま付与し、回答生成を行う基本的な RAG。

*4 情報同士の関係性を構造化し、その関係性に基づいて検索・推論を行う RAG の手法。文書間や概念間のつながりを踏まえた高度な文脈理解と回答生成が可能となる点が特徴。なお、グラフ RAG 技術は Advanced プランのみ個別対応。

リコージャパンは、リコーグループでの実践活動で培ったノウハウとともに、お客様に寄り添い、業種業務に合わせて利用できる「使える・使いこなせる AI」を提供し、お客様が取り組むオフィス／現場のデジタルトランスフォーメーション(DX)を支援してまいります。

バージョンアップした RICOH デジタルボディの特徴

1. 画像・図表も読み取る高精度な検索機能マルチモーダル RAG を搭載
 - ・テキストだけでなく、文書内の図面・グラフ・表・写真も AI が読み取って検索・回答を生成。製造業の技術文書、建設業の積算資料、IR 資料のチャートなど、画像を多く含む業務文書において、これまで検索できなかった「図の中の情報」にもたどり着けるようになり、ドキュメントの活用を拡大。
 - ・Advanced プランのみ搭載のグラフ RAG(個別対応)により、ナレッジ同士の関連性を構造化し保持することで、より正確性の高い検索も可能。
2. 調べるだけで終わらない汎用 AI 対話(Chat モード)搭載
 - ・社内文書を横断検索し、根拠付きで回答する「文書活用モード」に加え、文書検索を必要としない汎用的な AI 対話機能「Chat モード」を新たに搭載。アイデア出しや文章作成など、日常業務のあらゆる場面で AI を活用でき、社内ナレッジ検索から日常的な AI 活用まで本サービスで完結。
 - ・「メール文面にして」「要点を箇条書きにして」と指示すれば、チャット上でたたき台を作成。議事メモの要約、報告書の構成案など、テキスト作成の壁打ち相手としても活用可能。
3. 全社展開しやすいクレジット制課金
 - ・従来は質問とファイル登録が別々に課金処理されていたところ、バージョンアップした「RICOH デジタルボディ」は質問もファイル登録も利用量に応じ課金されるクレジット制に一本化。ユーザー数による課金はなく、利用の繁閑には追加クレジットの購入により柔軟に対応が可能。

バージョンアップした RICOH デジタルバディ のユースケース例

1. 営業支援部門における資料探索

商材の提案資料や法改正などの業界情報、活用できる補助金の情報など、営業提案に必要なナレッジを本サービスにアップロードすることで、必要な資料や情報を迅速に検索可能。検索に対する回答をもとに、お客様への説明文書やメール文案も生成し、業務を効率化。

2. 製造業における点検報告書作成

製造業での設備点検記録をナレッジとして本サービスにアップロード。表形式で記載された点検記録の数値などを読み取り、その後の対策の必要性の判定などに活用。Chat モードを利用することで報告書案の作成まで実現。



製造業でのユースケース例

今後の展開

情報収集機能にとどまらず、分析・生成機能のさらなる強化を図り、より幅広い業務領域で活用いただけるよう継続的に機能拡充を進めてまいります。また、「司令塔」となるデジタルバディがユーザーのリクエストを自律的に解釈し、各専門分野のデジタルバディと連携する「エージェント型 RAG」機能の実装を目指し、より高度な価値提供に向けた開発を推進してまいります。

■ 関連情報

RICOH デジタルバディ商品ページ

<https://www.ricoh.co.jp/products/list/ricoh-digital-buddy>

組織の知恵を、一瞬で引き出すRICOH デジタルバディ

<https://promo.digital.ricoh.com/ai/lp/digitalbuddy/>

「調べる」から「任せる」へAIエージェントが、「調べて・まとめる」まで終わらせるRICOH デジタルバディ

<https://promo.digital.ricoh.com/ai/lp/digitalbuddy/02/>

■ 関連ニュース

はたらく人に寄り添うAIソリューション「RICOH デジタルバディ」「RICOH Chatbot Service デジタルバディ」の提供を開始

https://jp.ricoh.com/release/2024/0628_1

生成AIサービス「RICOH デジタルバディ」の自治体版を提供開始

https://jp.ricoh.com/release/2025/0919_1

生成AIサービス「RICOH デジタルバディ」、新たにBox連携に対応

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000148.000006187.html>

生成AIサービス「RICOH デジタルバディ」、新たにSharePoint連携に対応

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000139.000006187.html>

*PDFは、Adobe PDFです。

*社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

| リコーグループについて |

リコーグループは、世界約200の国・地域で、AIをはじめとする先進テクノロジーと、長年培ってきたプリンティング領域の強みを基盤に、ワークプレイスにおける業務変革を支援するサービス・ソリューションを提供しています。また、商用・産業印刷事業や、インクジェット技術を応用した新たなソリューションの展開を通じて、お客様の価値創出を支えています(2026年3月期グループ連結売上高2兆6,083億円)。

“はたらく”に歓びを 創業以来90年にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>